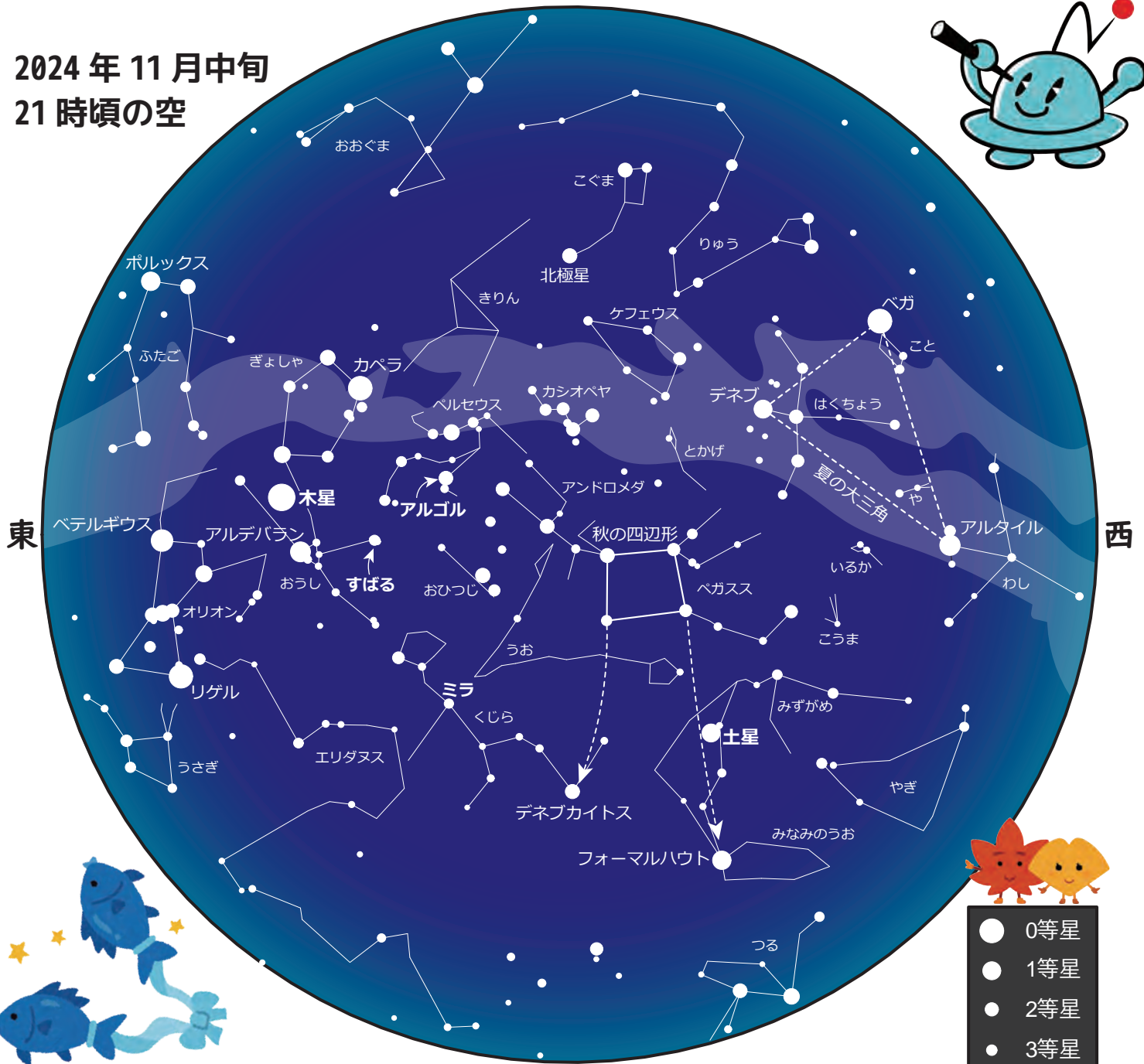


# 11月の星空案内

北

2024年11月中旬  
21時頃の空



- 0等星
- 1等星
- 2等星
- 3等星

南

秋も深まる11月。夜空を見上げれば、**秋の四辺形**を天高い位置で見つけることができます。秋の四辺形の西側の一边を南の低いほうへ延ばすと、**フォーマルハウト**（みなみのうお座）という1等星が見つかります。今年は四辺形とフォーマルハウトの間に**土星**（約0等）の輝きを見つけることができます。一方で秋の四辺形の東側の一边を南側に延ばせば、**デネブカイトス**（くじら座）という2等星が見つかります。北寄りの空には小学4年生が理科で学習する**カシオペヤ座**が昇り、観察するにはうってつけの時期と言えるでしょう。なお東よりの空からは冬の星座が顔を出しはじめています。おうし座で輝く星団**すばる**（M45）が昇り、今年はおうし座で煌々と光る**木星**（約-2等）の輝きが目に止まることでしょう。

天体観望会のご予約はネットかお電話にて【毎週土曜日開催】

阿南市科学センター

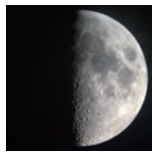
電話 0884-42-1600

<http://ananscience.jp/science/>

# 11月の月の満ち欠けと惑星について



新月  
1日



上弦  
9日



満月  
16日



下弦  
23日

## 11月の天体観望会で月が見える日時は？



11/9(土) 全ての回で観測可能



11/16(土) 19時、20時の回で観測可能

水星：中旬頃、西のごく低空で見える（16日に東方最大離角）。【-0.3等】

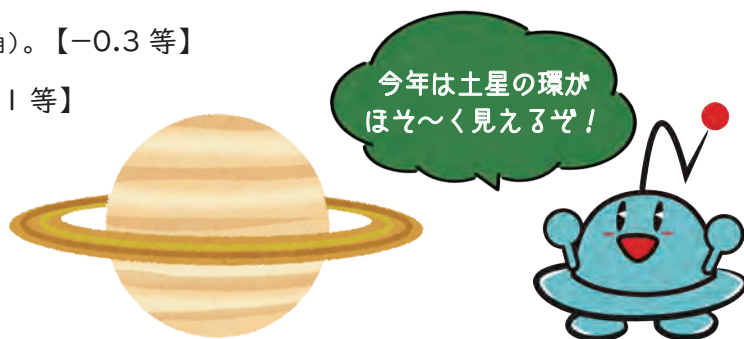
金星：日没後、南西の低空で見える（宵の明星）。【-4.1等】

火星：夜半前、東の空から昇ってくる。【約-0.2等】

木星：前半夜に東の空から昇ってくる。【約-2.8等】

土星：宵の口から南の空で見える。【約0.9等】

※各惑星の等級は中旬頃の明るさ。



## 話題の天文現象（観測報告）

### 【雄大な姿をみせた紫金山・アトラス彗星】

今年10月頃、大きな話題となった紫金山（ツーチンシャン）・アトラス彗星。阿南市科学センターの職員も複数回に渡って、明るくなった彗星の姿を観測することができました。夏頃にはこの彗星が崩壊するかもしれないという論文が登場し、多くの天文ファンが涙目になりましたが、無事に（当初の期待以上に?!）雄大な姿を現わしてくれました。

この彗星は9月28日に太陽に最も接近し（無事に崩壊を免れたようで）、日に日に明るさが増していることが報告されていました。我々の最初の観測は10月1日の夜明け前、東の空の低空で捉えることができました（図1）。このとき彗星は太陽の西側に位置していたため、明け方の観測となりました。

その後、本彗星は10月13日にかけて地球と最接近し、今度は太陽の東側に位置し、日本では12日から日没後西の空で観測できるようになりました。幸いにして12日は天候に恵まれ、まだ薄っすらと明るい西の低空に位置する彗星の姿を写真で捉えることができ、このとき肉眼でも彗星の集光部（コマ）を見ることができました。

さらに13日は前日に比べると彗星が少し太陽から離れたことで、肉眼で尾まで確認することができました。いわば「令和の大彗星」を目の当たりにし、職員一同一心不乱に撮影をしながら、彗星が西の空に沈むまで興奮しっぱなしのひと時でした。なお北半球で肉眼で見えるような彗星は1997年のヘール・ボップ彗星以来と言えます。20代以下の若者世代にとっては、初めて肉眼で彗星を見る体験ができたのではないのでしょうか。

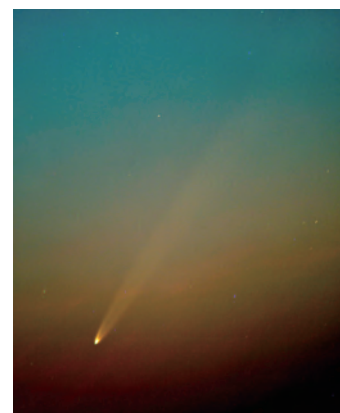


図1: 10月初旬の夜明け前に観測した紫金山・アトラス彗星。  
【左】2024年10月1日未明(K. Imamura @ 阿南市)  
【右】2024年10月2日未明(Y. Wakafuji @ 鳴門市)

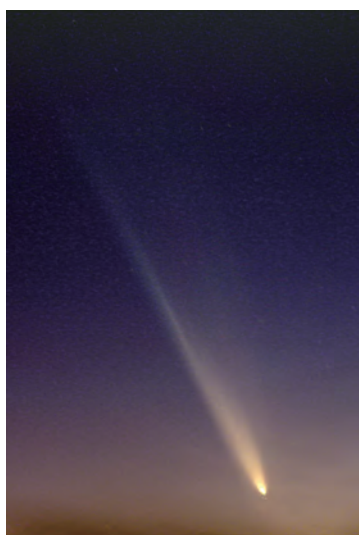
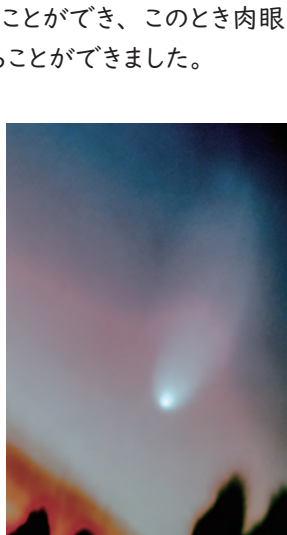


図2: 10月中旬頃日没後に観測した紫金山・アトラス彗星。

【左】2024年10月12日(K. Imamura @ 阿南市),  
【中央】10月13日(Y. Wakafuji @ 鳴門市), 【右】10月16日(K. Imamura @ 阿南市)